

NACEインター
東アジア・太平洋
EAPAC 2016

KMMCマグネタイトグリット

錆遅延効果を広く紹介

NACEインターナショナル東アジア・太平洋地区組織は8月16～18日の3日間、マレーシア国クアラルンプール市で「カンファレンスEAPAC2016」を開催し

た。今回のカンファレンスは防食と環境などをテーマとして、18カ国317人の防食技術者が参加。全体会議としての基調講演やフォーラムに加え、45件のプレゼンテーションが分科セッションで行なわれた。マレーシアのペトロナス社が今回の開催を主体的に支援したこと、石油・ガス関係のプレゼンテーションと議論が中心だった。

研削材KMMCマグネタイトグリットを用いた湿式ブラストは、湿式でありながら水質汚染のないマグネタイトによる錆遅延効果に関する技術で、海外の出席者から乾式での使用やコストについての質問などがあり、新技術としてその利点が広く紹介された。



講演するケーエムマテリアルの蘆田英久氏、(下)同社の大山勉社長(右端)

海洋セッション(Marine&ShippingSession)では、ケーエムマテリアル(千葉県市原市、大山勉社長)が「Eco-friendly Wet Abrasive Blast」と題し、「KMMCマグネタイトグリット®」を用いた湿式ブラストに関するプレゼンテーションを行った。

×E NACE(米国防食防食技術者協会)は世界130カ国に会員約3万6000人を擁する防食技術者団体。NACE International(NACEを母体として国際活動することになった組織)の東アジア・太平洋地区組織(EAPAC)は会員数が約6000人を超える。

乾式/湿式ブラスト材

特許5512854号

商標5741900号

JIS規格: JIS Z 0312

ISO:8504-2:2000 (E)

湿式用ブラスト材 モイスチャーブラスト用研削材
戻り錆遅延研削材 塩分フリー

KMMC MAGNETITE GRIT®

マグネタイトグリット®

乾式用ブラスト材
塩分フリー

商標5741900号

JIS規格: JIS Z 0312

ISO:8504-2:2000 (E)

KMMC BLACK◆GRIT®

ケーエムマテリアル株式会社 <http://kmmc46.wix.com/kmmc>

千葉県市原市青葉台一丁目1-5 ☎0436-60-8220 FAX0436-60-8219

競争力のある事業基盤が構築されるようにする。すべての税制についてきちんと確保していけるよう、不退転の覚悟で取り組む。実現のためには税制を活用している事業者の皆さんの切実度や行動も重要なポイントになる。事業者の意向を十分聞きながら、税務当局への活動、折衝に力を入れていきたい。

<トン税拡充要望>

▷トン数標準税制は世界単一市場で競争する外航海運の競争条件を均等化するという日本船主協会の観点と、日本の経済安全保障を高めるという政府の観点をベースに導入された。経済安全保障に資する日本船舶（日本籍船）に対してまず導入され、日本籍船は最も少なかった90隻程度から現在186隻へと増えた。さらに13年には、有事に日本にかかわる輸送を確実にできるようにした（オペレータ

一の）外国籍船も、準日本船舶としてトン税が導入された。

▷準日本船舶は現在四十数隻で、それほど増えていない。日本のオペレーターが準日本船舶を選んでいくことが必要になるが、それが着実に進められるような経営環境にあるかも、考慮する必要がある。世界的に海運が不況となっていて、準日本船舶を増やしていくための支障になっているとも考えられる。早急に最低限必要なレベルに達する必要がある。今回の要望が通れば準日本船舶となる可能性のある隻数が（船主の外国籍船に）広がる。ただし、準日本船舶とするためには一定の要件を満たすことが必要のため、全てが対象になるわけではない。（船主の外国籍船が準日本船舶の対象として認められても）準日本船舶となる隻数は当面は数十隻程度に

なると見込んでいる。

▷海外の税制にマッチさせる観点で、船協は全面適用を望んでいることは承知している。ただし、一気に広げていくことはできない。徐々に広がっていく。経済安全保障をベースに可能な範囲を検討して形となったのが、今回の要望だのご理解をいただきたい。

▷税務当局との調整を経て進めていくことになる。海事局の意向だけでは進められない。年末の税制大綱に向け調整し、目論見どおり進めば、来年の通常国会への法律改正案提出に向けた準備を行っていく。法改正が通れば来年には拡充要望が通る。このプロセスで船社の意向も聞きながら、税務当局との折衝で中身を固めていく。海上運送法の法律改正を経て、拡充・延長が認められていくプロセスを取りたい。

海運費用2カ月ぶり反転

■ 中国鉄鉱石輸入

【上海支局】中国鋼鉄工業協会が公表した7月の鉄鉱石輸入のトン当たり平均海運費用は、前月比10%増（前年同月比3.8%減）の13.8ドルだった。前月比で大幅減だった6月から一転、2カ月ぶりに反転した。

7月の鉄鉱石のトン当たり平均

海運費用は、豪州12.52ドル、ブラジル15.62ドル、南アフリカ10.3ドル、インド19.82ドル、インドネシア6ドルだった。

同月の通関ベースの鉄鉱石輸入量は前月比3.7%増の4683万7200トン、輸入金額は同1%増の25億3100万ドルだった。内訳は豪州

2999万9100トン・15億7600万ドル、ブラジル985万2300トン・5億5200万ドル、南アフリカ104万2600トン・6871万ドル、その他175万3800トン・9535万ドル。

なお中国税関総署による7月の鉄鉱石輸入量は8840万トン、輸入金額は49億1450万ドルだった。

防食技術の国際会議、

腐食・防食技術の国際機関NACEインターナショナルの東アジア・太平洋地区組織（EAPA）が16～18日、マレーシア・クアラルンプールで国際会議「EAPA2016」を開催した。海洋・海運のセッションでは3件のプレゼンテーションが行われたが、船用塗料メーカーのNKMコーティングスによる発表など、今回はいずれも日本からのプレゼンテーションだった。

会議には18カ国から317人の防食技術者が出席。全体会議のほ

日本の船舶用塗装技術など紹介

か、分科会で計45件のプレゼンテーションが行われた。海洋・船舶関連のセッションでは、NKMコーティングスが船底防汚塗料による抵抗低減効果を回流水槽試験の結果などと説明。また、化学品メーカーのケーエムマテリアルがマグネタイトを添加した銅スラグを用いた湿式ブラストの効果などを紹介した。造船国際団体ASEFの岩本洋事務局長もプレゼンテーションを行い、造船業の現状を説明。防食技術による安全性

向上や塗装による推進性能向上など、船舶における塗料の重要性を指摘した。

NACEインターナショナルは米国ヒューストンに本部を置く国際機関で、バラストタンク塗装基準（PSPC）の検査員認証機関として知られる。東アジア・太平洋地区組織のEAPAには約6000人の会員がおり、国際会議では以前は海洋関連のセッションで他の造船国からの発表者も多かったが、今回はいずれも日本だった。